

令和7年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

もくじ

P 1

事業評価及び公開事業報告会の方法

P 2

公開事業報告会スケジュール

P 3

自己評価指標等の一覧

P 5

各事業のふりかえりシート

日時 令和7年6月21日（土）午前9時～

会場 けやき会館 2階 大研修室（会場）

事業評価及び公開事業報告会の方法

1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和6年度は5事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

○令和7年度が最終年度となるもの（4事業）

※令和6年度が1年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は15分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（13分程度）を行います。

令和7年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和7年6月21日(土)
午前9時10分～正午
会場 けやき会館 2階 大研修室
(控室) 同2階 中研修室

進め方
○団体及び事業担当課は、協議の上「ふりかえりシート」を事前に作成。
○当日は、原則としてパワーポイントを使用し、成果報告を実施。(15分)
○報告を受け、審査員が質問や助言を行う。(13分)

時間	区分	内 容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
9:00	審査員オリエンテーション					
9:10	開会					
9:15	市民	里山保全・再生と活用 のモデル検討事業	森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。	特定非営利活動法人 自遊クラブ	森林政策課	令和7年度
9:45	市民	「さがみん条例」の1つ のシンボルとなる相模原市 オリジナル教育プログラム＝ 「シビックプライド向上ゲーム」 開発事業	現在、相模原市には、シビックプライドを醸成するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム(＝ゲーム)を開発する。	相模原市印刷広告 協同組合	シティプロモーション 戦略課	令和7年度
10:15	市民	野生鳥獣被害の実態や 対策、生物の多様性を 周知する事業	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。	野生動物との共生 の会	緑区役所区政策課	令和7年度
10:45	市民	「城山自然の家」を 観光ゲートとした城山 エリアでのe-bikeツア ーの造成	中山間地域への入口(ゲート)に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策をe-bikeツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題(二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど)の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。	城山観光協会	観光政策課、城山 まちづくりセンター	令和7年度
11:15	閉会					
11:15	相模原市市民協働推進審議会による意見取りまとめ(非公開)					
12:00	終了					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

①	事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業																		
	事業実施団体	特定非営利活動法人自遊クラブ																		
	事業担当課	森林政策課																		
今年度最終																				
自己評価指標(A：80%以上できた　B：60%以上できた　C：十分にできなかった)																				
自己評価点（a＝4、b＝3、c＝2、d＝1）　満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

②	事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業																		
	事業実施団体	相模原市印刷広告協同組合																		
	事業担当課	シティプロモーション戦略課																		
今年度最終																				
自己評価指標(A：80%以上できた　B：60%以上できた　C：十分にできなかった)																				
自己評価点（a＝4、b＝3、c＝2、d＝1）　満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

③	事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業																		
	事業実施団体	野生動物との共生の会																		
	事業担当課	緑区役所区政策課																		
今年度最終																				
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a＝4、b＝3、c＝2、d＝1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

④	事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bike ツアーの造成																		
	事業実施団体	城山観光協会																		
	事業担当課	観光政策課、城山まちづくりセンター																		
今年度最終																				
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a＝4、b＝3、c＝2、d＝1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整 理 番 号	表右のリストから番号を入力してください →		1	
事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業			
団体の名称	特定非営利活動法人自遊クラブ			
事業担当課	森林政策課			
事業の概要	森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。			
具体的な 取組みの状況	(1) 里山林の活用 令和5年度：FeeldWalk・ネイチャーゲーム・マウンテンバイク・森林浴・企業森林体験・グリーンウッドワーク計10回160名、広葉樹搬出利用 令和6年度：相模原わくわく探検隊・森林浴と里山リトリート・健康経営森林浴・グリーンウッドワーク計20回103名、針葉樹・広葉樹搬出利用 令和7年度：森林浴里山リトリート・ワーケーション体験会・森看板・森林ESD・グリーンウッドワーク計17回250名、ツリーデッキ（伐採木利用） (2) 里山林の保全・再生 令和5年度：軽トラ道作設（土沢50m・寺沢向150m）、センダン芽かき 令和6年度：軽トラ道作設（寺沢向150m＋自主100m）、センダン芽かき・剪定 令和7年度：センダン芽かき・剪定 (3) 市民啓発と参加者拡大 令和5～7年度：市民イベント参加3回、活動パンフ配布1100部 ※ 市主催の「里山体験講座」の運営依頼があり修了者が協働団体活動に参画（6名）			
役割分担	実施団体の主な役割 自遊クラブ：協働事業提案まとめ、里山林整備活用、軽トラ道作設活用、センダンテスト育林 ヘリテッジキーパー：森林浴、マウンテンバイクなど、個人や法人向けのプログラムを実施。 他団体がつちざわの森を活用するための調整。 さがみ湖森・モノづくり研究所：相模原ワクワク探検隊の企画・運営 つちざわの森スプーンクラブ：グリーンウッドワーク講座の開催 市の主な役割 負担金、地域・関係機関などとの連絡・調整、情報提供及びイベントの周知広報など。			
事業効果	市民ニーズに対応できた点 身近な里山林で多様な機能を示して、その楽しさを提供出来るようになり、利用が増えると同時に団体活動に参画する市民も増えた。 行政の効率化につながった点 当市が直接関与することができない私有林について、新たな利活用の可能性を見出すとともに、その事業収益で里山林の整備を行うといった新たな循環形態の可能性を示した。もって、当市の森林政策における森林保全に貢献した。			
事業終了後の 方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。 自遊クラブ：作設道利用による自伐型林業普及。センダン育林と生物多様化取組み。 ヘリテッジキーパー：自主事業、及び他団体がつちざわの森を活用することで、個人や法人が里山を活用する機会を創出する さがみ湖森・モノづくり研究所：森林環境教育を通して里山づくりを図る つちざわの森スプーンクラブ：定期開催をして市民が里山に訪れる機会を作る			
3年間の総事業費と 年度ごと内訳	10,829,000 円	令和5年度 3,195,000円	令和6年度 3,941,000円	令和7年度 3,693,000円
上記のうち市負担金	8,054,000 円	令和5年度 2,682,000円	令和6年度 2,923,000円	令和7年度 2,449,000円

事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業
-------	--------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい  いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市と3団体それぞれの特長・強みを発揮し、役割分担をして協働事業を進めることが出来た。	自己評価 a
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい  いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働事業開始と同時に、協働団体が市から同じ場所で「里山体験講座」の運営依頼を受け、協働団体で協力分担して講座を進め、さらに講座修了者が団体活動に参画して関係をさらに深めることが出来た。	自己評価 a
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい  いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 取り組んだ里山の課題は、市民生活の身近の課題であり、「さがみはら森林ビジョン」の項目でもあるので、この事業を進め広めて多くの市民参画を得て課題解決が出来る事業だと思う。	自己評価 a

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい  いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a ☒ b ☐ c ☐ d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価
	この事業を通じてひとつの団体(スプーンクラブ)が立ち上がったし、新たな活動参画者も加わり、事業が広がっているので、さらに多様な団体や参画者を加えて、里山の多様な楽しみと課題解決に取り組みたいです。	a
E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。		
実施団体記載欄		事業担当課記載欄
森の機能と楽しみは多様であるので、市と3団体(令和7年度は4団体)の協働で、里山林の活用と保全・再生の課題に取り組んだのが良かった。		当市としても、長年課題であった里山林の保全や利活用を検討するためのモデルケースとして事業実施ができました。事業の実施について、当市からの視察受入れにもご協力下さり、連携体制を構築することができたと考えます。
F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。		
実施団体記載欄		事業担当課記載欄
活用アクティビティの個人募集が大変であるので、団体募集・提携も強化したい。		事業内容は革新的で、里山林の利活用に可能性を示したものの、事業収益構造やキャッシュフローについて、課題があるものと考えます。また、事業の周知広報についても、改善の余地があるものと考えます。
G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!		
実施団体記載欄		事業担当課記載欄
多様な団体と協働すると活動が広がる。		森林の事業化については、当市としても木材収入以外の選択肢を模索しております。その利活用には多くの可能性が眠っていると考えますので、ぜひ多様な団体に、森林での事業企画や協働提案に参画いただきたいと思います。
H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)		
実施団体記載欄		事業担当課記載欄
4月から3月までフルに1年間の活動が出来るようになると良い。		当市森林政策において、私有林所有者や森林活動団体との連携は欠かせません。当団体は、里山林の管理の重要性を強く認識し、所有者や関係団体との連携にもきめ細やかに対応されてきました。事業担当課としても、引き続き連携を深めていけるよう、協働のあり方を検討してまいります。

写真添付欄



コメント記載欄

「相模原わくわく探検隊」は、地域の自然資源や伝統技術を活かした体験活動を通じて、参加者に「ものづくりの楽しさ」や「環境との共生」を学んでもらうことを目的としています。今回は、木工や染色などのワークショップを開催し、地域の自然や職人技に触れる機会を提供しました。

写真添付欄



コメント記載欄

「森林浴と里山リトリート」は、五感を使って森を楽しむことができるように、森林浴ファシリテーターが案内人になります。情報過多、思考優位、ストレスフルな現代人にとって、癒し、リトリート、マインドフルネスなど、心身の健康やリフレッシュの場として森を活用します。

写真添付欄



コメント記載欄

「企業向け健康経営 森林浴特別体験会」は、当初は企業研修2回、企業向け福利厚生利用2回を予定していましたが、森林浴を用いた健康経営のプログラム作りおよび体験会に変更しました。企業研修といっても目的によってプログラム内容は異なるため、担当する森林浴ファシリテーターの強み（看護師・社労士）を活かして、健康経営に的を絞ったプログラム構築と体験会を8回開催しました。体験会は経営者や協働可能性のある事業者の参加を募りました。

写真添付欄



コメント記載欄

「グリーンウッドワーク」は、土沢の森の特性を活かし、樹木観察を通じて生きた樹木への理解を高め、グリーンウッドワークで木を加工する樹木利用を経験する事を通して、森活用を体験してもらいました。

I : 24 取組の様子（写真とコメント） ※写真はできるだけ入れるようにしてください！

写真添付欄	コメント記載欄
 	「丸太の搬出・利用」については、プロの林業者は大型機械を使って丸太を搬出して利用しますが、ボランティア団体が小型機械で森に優しい軽トラ作業道を作設し、丸太の搬出がどこまで出来るか取り組みました。 道づくりの難しい急斜面は、著名な先生を迎えて講習会を開催して施工技術を学びました。（相模原市ゆめの芽補助金利用）
写真添付欄	コメント記載欄
 	丸太は軽トラ用クレーンを取り付けて積み込み、作設した軽トラ道を使って搬出しました。針葉樹は4mの丸太の搬出も行いました。
写真添付欄	コメント記載欄
	早生広葉樹センダン植林してから、芽かき・剪定を繰り返し2.5年経過しました。日当たりの良い場所のセンダンは直長部分が目標の4mに達しましたが、斜面で倒れる木は倒れ止めを施しました。
写真添付欄	コメント記載欄
写 真	mekaki

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		2		
事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業				
団体の名称	相模原市印刷広告協同組合				
事業担当課	シティプロモーション戦略課				
事業の概要	現在、相模原市には、シビックプライドを醸成するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム（＝ゲーム）を開発する。				
具体的な 取組みの状況	（1）シビックプライド向上ゲームの開発（令和5年度） ①サイト制作（さがみん教室情報局） ・「クイズカード」の電子ブックやさがみん教室の教材を公開 ・サイト内で参加者が作った各地区のクイズを募集 ②クイズカードの制作 初級編：小学校低学年向け、上級編：小学校高学年以上向け（大人含む） ③クイズ創作ノートの制作 ・地区ごとに、地図・参考キーワード・クイズ作成フォーマットにより構成 ・担当課や公民館等と連携し、地図・参考キーワードを精査 （2）出前授業の周知（令和6年度） シビックプライド向上ゲームの出前授業を周知するため、チラシ（A4：1500枚）・ポスター（A3：150枚）を作成し、市内小中学校や公民館に配布した。また、令和6年4月10日には報道機関に対して、出前授業開催に係る情報提供を行い、令和6年5月9日にはタウンニュース（さがみはら3区版）に出前授業に関する記事が掲載された。 （3）出前授業の実施（令和6年度） 15団体516名が参加 令和6年5月：中央小（小4全3クラス75名）、6月：藤野北小（小3全1クラス2名）、ひよこ児童クラブ（小4～6：9名）、田名小（小3全4クラス87名）、7月：いきいきサロンひばり会（すみれ自治会）（60代～80代15名）、中央小（小6全3クラス76名）、清新小（小3全4クラス113名）、鶴ヶ丘団地高齢者クラブパープル会（60代～80代15名）、8月：児童クラブいちばん星（小1～5、大人22名）、9月あおぞら学舎（小中学生7名）、津久井中央小学校（小3＋保護者34名）、10月：上鶴間公民館（60歳以上27名）、サロン畑ヶ中（畑ヶ中自治会）（70歳以上9名）、麻溝公園SAGAMIHARA サタマーケット（5名）、11月：青少年指導委員（藤野地区）（20名）				
役割分担	実施団体の主な役割 ○コンテンツの開発 ○出前授業の実施				
	市の主な役割 ○コンテンツのクオリティチェック ○向上ゲームと出前授業の周知				
事業効果	市民ニーズに対応できた点 シビックプライド向上ゲームの参加者にアンケートを実施した結果、Q1. 相模原のパズルとクイズは①楽しかったと回答が、439/516＝85.1%、Q2. 相模原のことをもっと知りたく①なった、②少しなったとの回答が、①351＋②118＝469/516＝90.9%となり、参加者の85%がシビックプライド向上ゲームを楽しみ、9割の方に、相模原に興味をもっていただくことができた。				
	行政の効率化につながった点 ・シビックプライド向上ゲームの出前授業を実施したことで、参加者から相模原市の魅力を発見するきっかけとなったとの意見もあり、シビックプライドの醸成に寄与した。 ・シビックプライド向上ゲームの教材（クイズノート・クイズカード）について、使いやすさやデザインなどに関する知見が団体側にあり、クオリティの高い教材を制作することができた。				
事業終了後の 方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。 ・相模原市印刷広告協同組合のSDGs推進・シビックプライド醸成委員会の事業として継続実施の予定 ・クラウドファンディング等の資金調達が可能になった場合は、相模原市のICT教育のサポートができるように「アプリゲーム化」を行ないスマホ・タブレット・PC上で「パズルとクイズ」によるシビックプライドを涵養するゲームに展開したい。 ・シビックプライド向上ゲームがいつでも体験できるよう、各公民館に「学習パズルぴーす」を配布する。				
3年間の総事業費と 年度ごと内訳	885,000	円	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			730,000円	55,000円	100,000円
上記のうち市負担金	764,000	円	年度	年度	年度
			650,000円	44,000円	70,000円

事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業
-------	---

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい いいえ			
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい いいえ			
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい いいえ			
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい		いいえ	
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a ☐	b ☒	c ☐	d ☐
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a ☐	b ☒	c ☐	d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
相模原市を学ぶためのパズルとクイズであるため、公共性の高いクイズや地図の制作には、市と協働が必須で実際に教材としてクオリティの高い内容となった。		出前授業の教材となる「クイズカード」「クイズノート」の制作にあたり、使いやすさやデザインなどに関する知見が団体側にあり、クオリティの高い教材を制作することができた。			
F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
定期的な打合せも実施でき、特にございません。		適宜打ち合わせを実施しており、団体との関係も良好であったため、団体側に求める改善点はない。			
G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
「相模原市が好きで、より良くしたい」という思いがあれば、必ず協働事業はうまくいきます!		市民(団体)と行政が協働して事業を行うことで、市民側にも行政側にもメリットがあるため、ぜひチャレンジしていただきたい。			
H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
今回の協働事業が事例として他市や都道府県等にもPRできる活動につなげたいと考えております。		シビックプライドを向上に寄与する取組であるため、引き続き事業を継続して行っていただきたい。			

I : 24 取組の様子（写真とコメント） ※写真はできるだけ入れるようにしてください！

写真添付欄



コメント記載欄

田名小学校では、体育館で87名を1回で実施。市職員と組合員が連携して運営できた。

写真添付欄



コメント記載欄

中央小学校では、4年生、6年生が参加し、特に6年生は、出前授業の後の時間で、パソコン上で自前のクイズ制作も行っており、理想的なゲームの活用を先生方がしてくれました。

写真添付欄



コメント記載欄

公民館や自治会のサロンなど、高齢者を対象にも実施。身体的課題もあり、パズルとクイズについて来れない場合が少数でしたがありました。事前にパズルをすること、クイズをすることを高齢参加者に知らせてもらいそれでも実施したい場合に引き受けることに。令和7年度は、そのことを踏まえても実施したいという申込みが上鶴間公民館からあります。

写真添付欄



コメント記載欄

青少年指導委員(藤野地区)からも申込みがあり実施。ゲーム内で行なうクイズづくりも積極的でした。アンケートの反応もよく、各地区の指導的な立場の方々にも多く参加していただくことが力ギだと思いました。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください ⇒		3		
事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業				
団体の名称	野生動物との共生の会				
事業担当課	緑区役所区政策課				
事業の概要	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。				
具体的な 取り組みの状況	・相模原市で捕獲したシカ、イノシシの皮を使ったキーホルダーの制作 ・パネルを使った説明 1. 農作物の被害状況 2. 農作物の被害に対する取り組みや対策 3. 狩猟とは？有害鳥獣とは？ 4. 肉や皮（生物資源）の利活用方法 5. 「野生動物との共生の会」の活動 6. シカ・イノシシ捕獲マップ 7. 獣見たよMAPの掲示 野生動物の捕獲の必要性、生物多様性や適正管理、野生動物の命の尊厳や肉や皮の利活用などを学ぶ機会を提供した。 野生動物と人間との共生の在り方について、相模原市民の身近な課題として、地域と一緒に考えた。				
役割分担	実施団体の主な役割				
	1. 農作物の被害状況や対策、有害鳥獣捕獲などの説明 2. 肉や皮（生物資源）の利活用方法の説明 3. 命に関わる繊細な問題を丁寧に説明 4. 革小物作り体験の場の提供				
	市の主な役割				
	1. 革小物作り体験に必要な革の原料や備品の補助 2. 市営施設の場所の提供 3. 市の保有する基礎的な情報（統計など）の提供 4. 広報 5. 客観的な意見や助言（公共性の維持）				
事業効果	市民ニーズに対応できた点				
	多くの市民の方に知られていないこと（農作物の被害状況や対策など）を学んでもらい、興味を持ってもらえたことは非常に価値のあることと思われる。また、革小物づくり体験では、実際に革に触れ楽しんで貰いながら、命について考えるきっかけや、野生動物と人間のとの共生のあり方を考えてもらえる場の提供ができ、非常に有意義な活動であった。				
	行政の効率化につながった点				
	鳥獣対策という動物の命に関わる課題に対し、市民の理解促進を進めたことで、行政としての仕事のやり易さが向上した。				
事業終了後の 方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。 行政の金銭的な補助に頼らず、同様の事業を継続する。補助がない分、革小物作りの単価を500円に上げ、人数をこなすというよりも、より丁寧な説明を行う。				
3年間の総事業費と 年度ごと内訳	2,591,173	円	7 年度	6 年度	5 年度
			859000円	912100円	820073円
上記のうち市負担金	2,099,000	円	7 年度	6 年度	5 年度
			743000円	743000円	613000円

事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい いいえ			
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい いいえ			
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい いいえ			
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
鳥獣対策班の持つ専門知識や正確な情報を、当会が市民の方に説明するという、それぞれの役割を明確にし実行できた。公共性の高い事業ということで、場所の確保が容易にできた。		市と団体が協働し、団体のノウハウを生かして野生鳥獣の被害の実態を周知することで、市の取り組む被害対策についての理解促進を深めることができた。			
F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
体験者へ伝えたいことが多く、パネルに掲示した情報量が多すぎた。もう少し字を大きくし、読みやすく工夫する必要がある。		野生鳥獣の被害の実態や共生の在り方について、よりわかりやすく説明するための方法や、団体の取り組みをより広く周知ための工夫が必要である。			
G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
参加しやすさ(金銭的、物理的)と、分かりやすさが重要だと感じた。公共性が高く、市民の民度が向上するような取り組みをお願いしたい。		課題に対して地域・市民と共に考える場をつくることが重要であるため、身近な課題を取り上げ、体験活動等の取り組みを充実してほしい。			
H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
鳥獣対策は野生動物の命に関わることであるため、今後も市民に丁寧な説明を心掛けていきたい。		協働事業終了後も、知識やノウハウの共有を行い、今後も継続して野生鳥獣に関する事業に取り組んでいただきたい。			

1 : 2 4 取組の様子（写真とコメント） ※写真はできるだけ入れるようにしてください！

写真添付欄



コメント記載欄

2024年8月
相模市立博物館にて
くくり罨説明の様子

写真添付欄



コメント記載欄

2023年10月
ユニコムプラザにて
小物づくりの様子

写真添付欄



コメント記載欄

2023年8月
プレジャーフォレスト（現MoriMori）にて
パネル説明の様子

写真添付欄



コメント記載欄

2023年7月
アリオ橋本にて
緑区長ご参加の様子

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整 理 番 号	表右のリストから番号を入力してください →	4
事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成	
団体の名称	城山観光協会	
事業担当課	観光政策課、城山まちづくりセンター	
事業の概要	中山間地域への入口（ゲート）に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策をe-bikeツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題（二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど）の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。	
具体的な 取組みの状況	1. 「城山自然の家」 ①「城山自然の家」の有効活用 ①2023年6月から開所し、観光案内を開始。10月からは地場の野菜販売を開始。6月からの来場者数は840名。②2024年度はホームページや地域情報誌、タウンニュースなどを通じてPR活動を積極的に展開、また野菜納入業者を1社追加し3社となり販売量が増加した。またしいたけ茸販売を開始したことにより大幅に収益が増加した。一方来場者数は延べ2400人と大幅に増加した。 2. 「e-bikeツアー」 ①2023年度のe-bikeツアーは、上期中にツアーのコンセプト、開催時期、コース設定、委託業者との契約等を決定し、また㈱あさひさんの協力をいただき9月に試乗会、11月と3月にはモニターツアーを行った。2024年度は自力でツアーが出来るように地域でのツアーガイドの養成を積極的に進め、9月にツアーガイド養成講座、10月にはガイド養成試乗会を実施した。また12月には関係者による2,000円のモニターツアー、3月には参加者を一般公募し4,000円のモニターツアーを実施した。2回の試乗会、2回のモニターツアーを通じて自前のツアーガイドや観光ガイドが育ってきたほか、コース選定、運営方法、役割分担、SNSを通じての募集、広報活動も計画を1年前倒しし、自走できる体制が整ってきた。	
役割分担	実施団体の主な役割	
	1. 「城山自然の家」 ①観光案内の実施と憩いの場を提供 ②HP、SNS、地域情報誌等を通じて広報活動 ③地場産の野菜や工芸品の販売 ④e-bikeツアーの事務、会計業務。 2. 「e-bikeツアー」 ①ツアーの実施計画、ツアーの募集、ツアーの運営、e-bikeのレンタル及び搬送、ツアーガイド及び観光ガイドの育成、ボランティアの確保、e-bike検討部会の定期開催。	
	行政の主な役割	
事業効果	1. 「城山自然の家」 ①「城山自然の家」の維持管理 ②「城山自然の家」の賃貸契約 2. 「e-bikeツアー」 ①関係機関調整（相模原市及び近隣都市） ②㈱あさひさんとの業務委託契約作成 ③ツアー実施計画&予算作成支援 ④ツアー運営及び広報支援（チラシ・ポスター作成・配布等）	
	市民ニーズに対応できた点	
	1. 「城山自然の家」 ①訪問客が2023年度は840人、2023年度には延べ2,200人に急増した。観光客の訪問もあるが、地場産野菜、特に10月から販売開始した生しいたけが人気で、結果大幅にお客様が増え、収益増に貢献した。 2 「e-bikeツアー」 ①2023年度上期は事業計画、ツアーコンセプト、ツアーコース、開催時期、㈱あさひとの打合せに終始し、下期の12月（関係者による）と3月（公募による）にモニターツアーを実施した。2024年度は自前のツアーガイドを養成する事を重点とし、ツアーガイド養成講座、ツアーガイド候補者による2回の試乗会そして2回のモニターツアーを実施した。特に3月の2回のモニターツアーでは、ガイド養成で育った4名がツアーガイドとなりツアーをリードした。インストラクターとして一緒にツアーに参加していただいたあさひさんからツアーガイドに対し高評価をいただいた。3年間で自前のガイドツアーと観光ガイドを育てる計画は現在前倒しで進んでいる。	
	行政の効率化につながった点	
	相模原市の魅力を効果的に発信することができた。 e-bikeという体験型のコンテンツができたことにより、観光客の選択肢を増やすことができた。	

事業終了後の 方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。			
	1.「城山自然の家」 城山自然の家の3年目以降の運営については、「城山自然の家」の有償借用、諸経費、人件費等を自費で賄うことを考えるとハードルが高い。現在河内椎茸園を誘致し地元城山地区でこの秋からしいたけ栽培・販売を開始する計画である。城山観光協会が推奨し城山の名産として販売協力することで収益を確保し、「城山自然の家」の維持管理を独力で出来る様努めて行く。 2.「e-bikeツアー」 ○来年度以降の方向性・・・現在はモニターツアーのため5,000円の参加費としているが、これでは赤字となるため持続可能な参加費を調整する必要がある。金額が高くても参加していたらだけるよう付加価値を付け、魅力ある内容とコース設定が必須である。またe-bikeのレンタル費が高いため、e-bikeをどのように用意していくのかが課題である。			
3年間の総事業費と 年度ごと内訳	7323千 円	2023年度	2024年度	2025年度
		2,093千円	2,426千円	2,804千円
上記のうち市負担金	4695千 円	2023年度	2024年度	2025年度
		1,815千円	1,940千円	1940千円

事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成
-------	--------------------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい いいえ			
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	この事業は市との協働事業でなければ実行できませんでした。3年間の協働事業ですが、終了後も引き続きご支援をいただきたい。	A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい いいえ			
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	事業を継続している中で、お互いの役割分担が明確となり、かなりの部分で以心伝心により事業がスムーズに進められています。	A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい いいえ			
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))					
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	3年過ぎて完全に独立した運営になるかわかりませんが、それに向かってお互い努力・協力しています。	B			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a ☒	b ☐	c ☐	d ☐
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	2年経った現在までは順調に進んでいると思います。	A			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
①毎月の定例会の中で、お互い(市観光政策課、城山まちづくりセンター)の役割分担が明快になっている。 ②資料やチラシなどの作成に全面的に協力してもらえた。 ③ツアー当日には部署を上げて参加、協力していただけだ。 ④事業計画や予算の立案、行政間の調整の立案等アドバイスをいただいている。	ツアーのコースやお土産等、地域ならではの視点で様々な提案をいただき、今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた。 観光として非常に学ぶことが多かった。

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
特にありません。十分協力いただいています。	適宜会議及び個別の打ち合わせを実施することにより円滑に事業を進めることができたため、改善点はあります。

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
城山地区には観光案内所、観光センター、キャンプ場、グランピング場、温泉等がなく観光施設はないですが、自然豊かな観光スポットが数多くあります。二次交通が希薄ですが、e-bikeツアーやレンタル(将来的に)を通じて城山の観光を観光を点から線につながられるよう頑張っていたきたい。	市民(団体)・行政どちらかだけでは実現できない取り組みを両社の協働により実施することができるため、是非積極的に制度を活用してほしい。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
e-bikeツアーが収益が上がられ、持続可能にするにはe-bikeのレンタル費が高すぎる。それを軽減するため、支援をお願いしたい。	市外から人を呼び込み、地域に寄与するコンテンツとして育てていると感じるので継続して事業の実施をお願いしたい。

写真添付欄



コメント記載欄

①「城山自然の家」…観光案内所及び地場産野菜販売所 ②③地場産野菜の販売 ④肉厚生しいたけの販売 ※地場産野菜に加え2024年10月から生シイタケの販売を開始したことから、大幅に収益が増えてきた。

写真添付欄



コメント記載欄

⑤出発前に本村市長との記念撮影 ⑥ツアー参加者の出発前の記念撮影 ⑦城山湖周辺でのツアーの様子 ※安全講習、運転講習後に本村市長によるサプライズの激励訪問を受けた。ツアーのポイント、ポイントで学生ボランティア(写真班)が多くの写真を取りツアー参加者に提供した。

写真添付欄



コメント記載欄

⑧城山湖堰堤を走るツアー参加者 ⑨アーチ形の新・旧小倉橋の下を走るツアー参加者 ⑩新・旧小倉橋、相模川の歴史やリニア新幹線の工事状況を説明する観光ガイド ※特別許可を取り城山湖堰堤を走行したり、城山湖周辺や新・旧小倉橋周辺の観光スポットを観光ガイドの説明を受け、ツアー参加者から景色が素晴らしく、また城山についてたくさん知る頃が出来参加してよかったとのご意見を多くいただいた。

写真添付欄



コメント記載欄

⑪「城山自然の家」にゴール ⑫ゴール後のツアー参加者の記念撮影(まだまだ走れそうな元気さ) ⑬ゴール後に「城山自然の家」での意見交換会 ※意見交換会でのツアーの感想は、○距離・時間的に丁度良かった○景色が素晴らし所が多くあった○梅もぎ体験を楽しめた○疲れた頃に休憩ポイントがあり走り易かった●交通量の多い所は避けるコースに●高齢者には少しきつい所があった●トイレ休憩の場所をマップに明記して欲しい